

「社協」は社会福祉協議会の略称です。

社協
だより

No.177

2025年 新年号

発行：社会福祉法人
富士市社会福祉協議会
〒416-8558
富士市本市場432-1

TEL. 64-6600
FAX.64-6567

お元気ですか

特集 高齢者を地域全体で見守りたい
～「さりげなく見守る」支えあい活動～



企画
お年玉

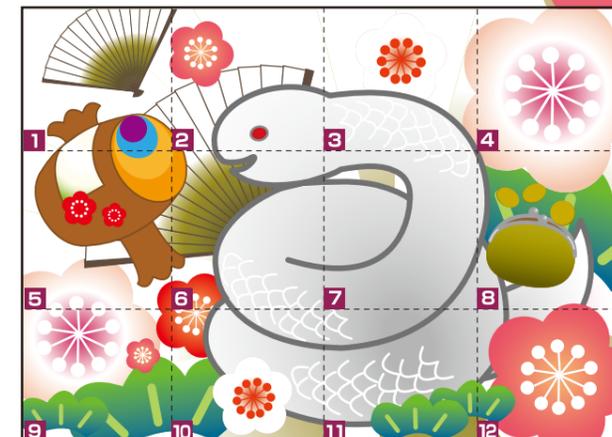
あれっ?どこかが違うぞ!?

図書カード
プレゼント!

20名様

A AとBを見比べて、違っているところを5ヶ所探してハガキに答えを番号で書いて下さい。

B



- 締め切り日 令和7年2月21日(金)
- 応募は、はがきに ①解答 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥あなたは、地域の支えあいの活動に参加したいと思いますか。
④思う ⑤どちらかと思う ⑥どちらかと思わない ⑦思わない ⑧参加したことがある

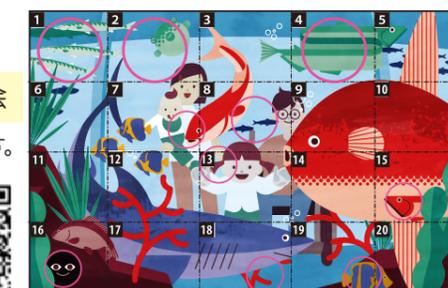
〒416-8558 富士市本市場432-1 富士市社会福祉協議会

- 正解者の中から抽選で**20名様**に図書カード(1,000円分)を差し上げます。
- 当選者の発表は3月14日までに発送をもって代えさせていただきます。
- 応募いただいた際の個人情報、懸賞目的及び社協事業の情報提供以外での使用はいたしません。

ウェブ申込み
はこちら



前回(No.176)の答えは
①②④⑦⑧⑬⑮⑯⑰⑱でした。
10箇所のうち5つ分かれば正解としました。



応募総数
329通
たくさんのご応募、
ありがとうございました。

たくさんの善意をありがとうございました!

令和6年8月1日～令和6年10月31日(敬称略)

1. 北嶋栄一
2. 吉原聖母幼稚園
3. 大丸松坂屋百貨店労働組合静岡支部
4. 株式会社ユーライフ 代表取締役 石川雅博 3回
5. 株式会社開成
6. 立光寺
7. ADEKA労働組合
8. 連合静岡富士・富士宮地域協議会
9. 中央静岡ヤクルト販売株式会社
10. ヤクルト田子浦親交会
11. 明治安田生命保険相互会社沼津支社 支社長 松尾洋
12. 富士吉原ライオンズクラブ
13. 林製紙株式会社

14. 富士山吉原ロータリークラブ
15. 富士ロータリークラブ
16. 新富士ロータリークラブ
17. 稲葉大輝
18. 吉原地区民生委員児童委員協議会 匿名6件

<くらし・子ども支援基金指定寄附>

1. 東京六大学 富士山カレッジカップ

<交通遺児援護事業指定寄附>

1. 富士地区貨物運送事業協同組合 理事長 吉野正則
2. 一般社団法人静岡県トラック協会富士支部富士運輸会

ありがとうございました



富士市社会福祉協議会のラジオ番組!

Radio 84.4fm

富士市社会福祉協議会
はあとふるトーク

毎月最終水曜日15:10 放送!

「手話」覚えてみよう!話してみよう!

84

開運 かいうん

【運・偶然】
右手をグーに
して、左手の手
のひらの上で
回します。



【開く】
胸の前で、すぼめ
た両手をパッと
左右に広げます。

いつまでも安心して暮らせる福祉のまちづくり

※社協だより「お元気ですか」は、皆さまからいただいた会費で発行しています。

高齢者を地域全体で見守りたい ～「さりげなく見守る」支えあい活動～

誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせるように、富士市では、地域住民が主体となって、ともに支えあう活動(仕組み)が広がっています。社会福祉協議会では、各地区のコミュニティソーシャルワーカー(地区担当)が地域包括支援センターをはじめとする関係機関とともに、住民主体の支えあい活動のサポートを行っています。今回は、地域の高齢者をさりげなく見守りながら支えあう、須津地区の活動を紹介します。



「高齢者みまもり連絡所」

～高齢者を地域全体で見守る仕組み～

高齢者が須津地区で安心して暮らせるように

『高齢者みまもり連絡所』は、高齢者の保護やさりげない見守りを目的に、令和5年8月に須津地区福祉推進会の事業としてスタートしました。「子ども110番」の高齢者版として、高齢者が道に迷ったり急に体調が悪くなった時など、ちよつと困った際に表示板が設置されている家や事業所に気軽に立ち寄ってもらうための取り組みです。



曾我俊幸さん(福祉推進会会長)

「須津地区で高齢者が安全に安心して暮らせるよう、地域全体で見守る仕組みを作りたいという地域住民の想いがカタチになりました」と会長の曾我さん。須津地区福祉推進会で話し合いを重ね、地域の方々の協力を得て、この仕組みが出来上がりました。



「高齢者みまもり連絡所」発足式

きっかけは 「須津にもあったらいいのじゃないか」

きっかけは事業発足の約1年前、「こんな仕組みが須津にもあったらいいのじゃないか」、副会長の半田さんが目にしたのは、山形市の滝山地区の取り組みを紹介した新聞記事でした。高齢化が課題とされる滝山地区で、地区内の介護保険事業所に高齢者が立ち寄れる連絡所を設置することで、高齢者を地区全体で見守る仕組みを作るといふものでした。

「他県で面白い取り組みを見つけたけど、これって須津にも合うかもしれない」、福祉推進会の会議で新聞記事を共有しました。委員の皆さんからは、「須津も高齢化が進んでいるし、こういう仕組みが必要だと思う」、「連絡所の設置は困っている高齢者にちよつと声をかけるくらいの意識で始められそう」、「このよ



半田育子さん(福祉推進会副会長)



うなさりげない取り組みなら、大がかりな事業としてはなく、私達でも出来るかもしれない」といった前向きな意見が多く集まりました。「難しく考えず、とりあえずやってみよう」、委員の皆さんの気持ちが一致したことで、発足に向けた話し合いが始まりました。

表示板はさりげない 見守りの証

話し合いは、取り組み目的を何度も確認しながら進めていきました。「表示板を設置することで、さりげなく見守る気持ちが高齢者や地域に伝わってほしい」、「表示板設置に協力してくれる方がさりげなく続けられるものにしてほしい」、「表示板があることで、須津地区は高齢者を見守っている地域なのだと実感できるようなにしたい」、この取り組みが見守る側と見守られる側双方にとって、さりげない関わりとなることを重視して、表示板や活動マニュアルの作成に取り組みました。

「表示板はさりげない見守りの証となるものだから、優しい気持ちで伝わるデザインがいい」、「須津の地域性が表



加藤てるみさん、山元光則さん、鈴木かず子さん(福祉推進会企画委員)

れた明るいキャラクターがいい」など、意見を出し合った結果、須津の浅間古墳のシンボル・浅間姫を表示板に描くことに決まりました。肝心のキャラクターデザインは、「地域のためになるならば」と須津地区の大学生が担ってくれたことで、須津らしい明るくて優しい表示板が完成しました。また、活動マニュアルには、高齢者を保護した際の対応と日頃のさりげない見守りをお願いしたい旨を記載しました。

自分たちの住む地域を良くしたい

「一般世帯でも地域の高齢者を気にかけている方は多いはず」、「コンビニやスーパーなどの商店ならば、日頃から立ち寄るから見守りになる」、須津版の連絡所は、地域の事業所だけではなく、一般世帯や商店に対してもサポーターとして表示板設置の協力を募ることにしました。」と



勝呂裕子さん、鈴木美鈴さん、原田陽二郎さん（福祉推進企画委員）

れだけの住民がサポーターになってくれるだろうか、不安を抱えながらも、事業開始のお知らせとサポーター募集を兼ねたチラシを作成して須津地区全戸に配布しました。また、各委員が協力してくれそうな方を訪ねて説明を行いました。

サポーターを募る中では、自身も高齢者世帯の方から「高齢者が高齢者を見守るという状態になるけど、これも重要な支え合いだと思おうから協力したい」という声や、ある店舗では「店頭に防犯カメラもあるから、もしもの時には映像の提供もできるよ」といった声を掛けてもらいました。「サポーターとなる方が連絡所の趣旨に賛同し、意識を持って協力してくれることが嬉しい」、「地域の方の自分たちの住む地域を良くしたい」という想いを感じた」、高齢者みまもり連絡所に對する地域の方の反応に委員の皆さんも安堵しました。

結果的に約50件の連絡所サポーター申請を得ることができ、令和5年8月に高齢者みまもり連絡所は発足しました。発足に際しては、約20名のサポーターが集まり発足式が行われました。会場は、「地域に根付いていく活動になってほしい」と願う地域の方と委員の皆さんの笑顔で溢れました。

地域の役に立てて嬉しい

「以前から須津の高齢化は感じていたし、ひとり暮らしの高齢者など気になる方もいた。日頃から見守る意識はあったが、地域全体で見守れる仕組みがあればいいなと思っていて」、「協力者の池田さんは、配布されたチラシを見て、連絡所サポーター募集に自ら申込みをしました。」



池田耕作さん（連絡所サポーター）

表示板を設置してから、実際に高齢者が家を訪ねて来たことがありました。「家の雨樋が外れてしまったのだが、一人暮らしで直すことが出来ず困っている」と相談を受け、池田さん自身で対応できる内容だったため、自ら復旧作業を行いました。高齢者の方からは、「池田さんの家の前を通るときに表示板を目にしていたから、何か困りごとが

あれば寄ってみようと思っていた。相談してよかった、ありがとう」と感謝の言葉をもらいました。

「地域の役に立ちたいという気持ちで連絡所サポーターになったから、実際に役に立てて嬉しかった。これからも何かあれば気軽に寄ってもらいたいが、表示板があることだけでも地域の高齢者は安心を感じていると思う」、池田さんはこれからも連絡所サポーターとして、地域の高齢者を見守っていきます。

この取り組みを途切れさせたくない

連絡所サポーターの方々から「どのような見守り方があるか話し合ってみよう」、「いざという時の対応方法も知りたい」という声をいただき、東部地域包括支援センター協力のもと、連絡所サポーターを対象とした認知症サポーター養成講座を開催しました。

「養成講座では認知症や高齢者に対する知識を深めていただきました。連絡所が発足して終わりではなく、この取り組みを途切れさせたくないという地域の想いを感じます」、連絡所の発足に関わってきた川崎さんも、見守る側の意識を高めながら、連絡所が地域に浸透していくことを願っています。



認知症サポーター養成講座

「連絡所は誰もが関わられる仕組みだし、まちづくり協議会も含めて多くの地域の方が関わっており、地域全体での取り組みになっていると感じます。声をかけられる関係性やちょっと無理が言える関係性を活かして、須津らしい活動として脈々と続いていくしてほしいです」とセンター長の大家さん。連絡所が地域に浸透し、地域としてのさりげない見守りがこれからもずっと続いていくことが大切です。



大家芳子センター長と川崎亜紀さん（富士市東部地域包括支援センター）

須津地区全体に見守りの輪を広げたい

高齢者みまもり連絡所が発足してから1年が経ち、連絡所サポーターの口コミなど自発的な広がりにより、連絡所設置数は70件を超えました。連絡所は地道に増えていますが、「連絡所の設置場所も町内ごとに偏りがあるから、少ない町内にはもっと増やしたい」、「表示板は見かけるようになったが、連絡所としての役割はまだまだ知られていないと思う」、委員の皆さんも連絡所サポーターもまだまだ満足していません。

「見守りが広がってほしいと願う皆さんの想いと常に前向きに事業に取り組む姿勢を見ていると、誰もが関わってみたいくなります」、社協コミュニティソーシャルワーカーも一緒に、連絡所の設置場所が一目でわかるマップの作成や

連絡所設置数	
個人宅	60件
事業所	13件
計	73件

※R6.10月末時点

連絡所サポーター 申込み・問合せ
須津まちづくりセンター ☎0545-34-0004
富士市社会福祉協議会 須津地区担当 ☎0545-64-4649



佐野舞（社協コミュニティソーシャルワーカー）

イベントでの周知活動を通して、地域への浸透を目指しています。

「連絡所が地域のセーフティネットとしても機能してほしい。最終的には高齢者の見守りだけでなく、須津地区全体に見守りの輪が広がって、子どもから高齢者まで地域全体で支え合うまちになってほしい」、高齢者みまもり連絡所に関わる皆さんの想いは、須津地区の合言葉である「住みよいまち、住み続けたいまち」、「須津」をつくりたいの実現に繋がるはず。

知っていますか？ 交通遺児援護事業

この事業は、交通事故によって保護者を亡くされた児童生徒(高校3年生まで)の方を対象に行っています。事業運営は、市民の皆さまから交通遺児へと寄せられた善意の寄附です。(寄附をお寄せくださった方々は、『お元気ですか』に掲載させていただいております。)

- 事業内容**
- 見舞金の支給
 - 小・中・高校入学時の祝金の支給
 - 交通遺児等育英奨学生制度

※詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

問合せ 総務係 ☎64-6600
メール: soumu@fujishishakyo.com

ご参加ください!

第44回 ボランティア講座



新しいボランティアの形が増える中、富士市でも、多様な魅力的な福祉活動やボランティア活動が行われています。本講座は、これからボランティア活動を考えている方や、しばらく活動から遠ざかっている方、現在ボランティア活動をされている方も含めて、今後のボランティア活動に新たなつながりや広がりを持つことを目的に開催します。

日時 令和7年3月1日(土) 13:30~15:30

会場 富士市フィランセ 西館4階 大ホール

内容 「おっと、ここはワタシの出番だ講座
~ボランティアをする前に聴いておきたい90分の話~」

講師 あそびの工房もくもく屋
事務局長 田川 雅規氏

対象 ボランティア団体・ボランティアに興味がある市民 等

定員 40名(受付順)

申込み 令和7年1月6日(月)から
2月17日(月)まで
申し込みフォームまたは
電話にて受付

問合せ 富士市社会福祉協議会
ボランティアセンター
☎64-7100

メール: vc@fujishishakyo.com



申込フォーム

受け取り忘れていませんか? 地域ダントツの実績!!

障害年金

相談件数5,122件以上!!

病気やケガで障害を負った方で、一定の条件を満たしていれば受給することができる「障害年金」。

症状等に応じて年間約

58万円~200万円にも。

病気やケガで働く事に困難がある方、お気軽にお問い合わせください。

無料相談会

静岡会場 静岡市葵区佐馬町1-2
12:00~16:00

第440回 1/15(水)、1/29(水)

第443回 2/12(水)、2/26(水)

三島会場 【三島商工会議所】
三島市一番町2-29 13:00~17:00

第447回 2/20(木)

毎月2回ずつ静岡市・浜松市で開催中!

対象となる主な傷病 ※これらは一部です。約100種類の傷病が対象となります

うつ・統合失調症・脳梗塞・脳出血・がん・人工肛門・人工関節・肝硬変・手足の外傷・心疾患・知的障害・発達障害・人工透析・目、耳の病気など



社会保険労務士 榊原仁美

静岡・浜松障害年金相談センター

☎054-293-5445

平日10:00-17:30

運営:アイアール社会保険労務士法人

アイアール 障害年金 検索



スマホ対応

広告募集

お元気ですかに掲載する
広告を募集しております。

問合せ

総務係 ☎64-6600

- ◆内科全般◆ 糖尿病 甲状腺 脂質代謝 内分泌 循環器 消化器
- ◆外科全般◆ 消化器 乳腺

◆診療時間

AM9:00~12:00

PM3:00~5:30(受付終了)

◆休診日

日曜日・祝日・土曜日午後

◆当院の診療は予約制です。

まずはお電話をお願いします。



小松クリニック

医療法人社団 青葉会 小松クリニック

〒417-0061 富士市伝法1989-66 ☎0545-57-5225

http://www.komatsu-clinic.or.jp

大学生が企画した

「夏休み福祉なんでも学習」

を開催しました!



グループワーク

8月3日に、令和6年度の夏休み福祉なんでも学習を開催しました。この事業は、中高生を対象として、夏休みに「福祉」に触れる機会を設け、体験や学習を通して福祉への興味と共生社会の理解を深めることを目的に開催しています。

今年度は「大学生と学ぶ福祉の魅力」災害時に快適に眠るためにはどうする?」をテーマに、静岡県立大学短期大学の大学生が企画から運営まで担い、当日は約30人の中高生が参加してくれました。



みんなで集合写真

今回の企画は、災害時の避難所を想定し、実際に体育館で一晩を明かした学生たち自らの体験から生まれたものです。「足音が気になる」「普段と違う環境で眠れない」などの気づきから、「どうしたら快適に眠れるのか?」について学生と一緒を考えたいという思いに至り、実現しました。

当日は、実際に何も無い床や段ボールベッドに横になり、寝心地を比較することで、「段ボールベッドも思いのほか寝心地は良い」という声が聞かれました。同時に、「避難所生活が長いから、快適に過ごせないうちも」との声もあり、グループワークでは、避難所生活における快適な睡眠をテーマに意見を出し合いました。「体育館の室温が気になるから、扇風機の設置など対策が必要だ」と思う、「少しでもプライバシーが保たれるように仕切りを作った方がいい」など、睡眠環境改善のためのアイデアもたくさん出て、有意義な話し合いとなりました。

参加者の感想からも、「避難所生活を想像する機会になってよかった」、「年齢の近い大学生と話

すことでより身近な問題として考えることが出来たなど、参加してよかったと感じている人が多く、企画した大学生にとっても目的を達成でき、満足感を得ることが出来ました。

今回は、大学生が自ら感じた課題を高校生・中学生に伝えながら、みんなで考えて深めることが出来ました。これからも、このような企画を通して、学生が「福祉」に触れ、身近な課題や地域の課題について関心が持てるよう、取り組んでいきたいです。



段ボールベッドを手作り